

福祉 × 伝統産業 × Win Win

「あい×愛♥で共生社会」地元の野球チームを
応援することで社会の一員としての役割を果たす



(令和3(2021)年7月撮影)

≡(★注目ポイント★)≡

- 1 野球チームと協働し、商品を開発することが障がいのある人たちの地域社会の一員としての自覚と自信に
- 2 野球チームファンを福祉のお客様に、福祉関係者を野球チームのファンにするウィン・ウィンの相乗効果
- 3 試合時の来場者記念グッズの依頼や野球観戦イベントへの参加などで仕事の創出や販路拡大へとつなぎ、野球チームとの協働関係を継続

特定非営利活動法人
とくしま障がい者就労支援協議会
<https://www.arunjo.com/>
(徳島県徳島市)

株式会社パブリック
ベースボールクラブ徳島
徳島インディゴソックス※

●基本データ(令和3(2021)年11月現在)

所在地 〒770-0005
徳島市南矢三町2丁目1番59号
(徳島県立障がい者交流プラザ 3階)

TEL 088-602-7560

開設年 平成19(2007)年

職員数 13人



概要

平成30(2018)年に徳島県が実施した徳島インディゴソックス活用事業をきっかけに、野球チーム・徳島インディゴソックスと、とくしま障がい者就労支援協議会はつながりました。

新型コロナウイルス感染症流行の影響を受け、就労支援事業所はイベント等による商品の販売機会が激減しました。そのため、環境や情勢に左右されないオリジナルショップの確立や地元企業・団体・組織との連携による障がい者の地域参加を図ることを目的にECサイト「あわのわONLINESHOP」を立ち上げました。ECサイトでは徳島県の伝統産業である藍染を活かしたインディゴソックスとのコラボレーション商品を販売しています。

SELP Vision 2030



2 4



5

構成員と役割

本事業に携わる
職員の人数

5人

- 総括** 企画の実施に関する確認・指導・問題管理
- 経理** 事業に関する経理全般
- 企画** インディゴソックスへの企画の提案、施設との商品開発企画
- 運営** ECサイトの管理、受発注の管理
- 実務** 施設・インディゴソックスとの連絡調整・協議

連携組織

グッドジョブセンター GJCかのん、板東の丘、ひまわり園、就労支援センターハーモニー、徳島インディゴソックス

連携事業所は、藍染製造や藍染生地加工作業を行っています。

※ 株式会社パブリック・ベースボールクラブ徳島 徳島インディゴソックス/プロ野球独立リーグ四国アイランドリーグplusのチーム

開始までの経緯

平成30年に徳島県が実施した徳島インディゴソックス活用事業でコラボレーション商品（以下、コラボ商品）の製作やイベント（試合）参加をきっかけとして、とくしま障がい者就労支援協議会（以下、就労支援協議会）は、プロ野球独立リーグ四国アイランドリーグplusの野球チーム・徳島インディゴソックス（以下、インディゴソックス）と関わりができました。

その後新型コロナウイルスまん延の影響を受け、イベント等による販売機会が激減したため、環境や情勢に左右されないオリジナルショップの確立、障がい者の工賃向上の実現、地元企業・団体・組織との連携による障がい者の地域参加を図ろうと、就労支援協議会は令和2（2020）年8月にECサイトを立ち上げる準備を始めました。

令和3（2021）年2月、ECサイト「あわのわONLINE SHOP」が立ち上がり、その年に、インディゴソックスとのコラボ商品企画が快諾され、9月に特集ページ「徳島インディゴソックス×あわのわ」をアップすることができました。

具体的な取り組み

ECサイト立ち上げの年には、徳島県の伝統工芸である藍染めに取り組む事業所と、インディゴソックスとが連携しコラボ商品を企画開発し、令和3年春からコラボ商品ページの制作を行い、9月のインディゴソックス公式戦イベントの参加と同日、ECサイトあわのわONLINESHOPでインターネット販売が始まりました。

藍染めに取り組む事業所の集まり「藍部会」が商品開発を受けもち、各事業所の得意分野（小物の染め・大物の染め・縫製・レーザー加工・デザイン等）に製作アイテムを振り分けました。そのため作業量が偏らず、新商品の製作は円滑で順調に進みました。単価の高い商品は受注生産とし、事業所に在庫や材料備蓄の負担をかけることのない販売方法がとられています。



藍染「染め」の作業

事業で発生する経費

商品開発費（材料代、試作の染め代）、広告費、ECサイト運営費（会員施設サイトの更新と撮影・取材文や紹介文のライター費用）は、徳島県からの補助金で賄われています。

工夫していること、心がけていること

相乗効果の創出

コラボ商品のタグには、インディゴソックスのロゴマークと就労支援協議会のawanowaロゴマークがセットで使用されています。インディゴソックスのウェブサイトと就労支援協議会のECサイトには相互リンクを張り、お互いの顧客層を取り込むことができる相乗効果を狙い、連携メリットを強く意識しました。

お客様に 買ってもら ための工夫

ECサイト・あわのわONLINE SHOPは、掲載商品の背景やストーリーが見える説明を心がけています。ECサイトを見た人に、買いたい！と思わせる魅力あるコンテンツをめざしています。



アンバサダー選手の撮影風景
（令和3（2021）年7月撮影）

課題と対応

課題 未知の **対応** 販売状況への対応
ECサイトを始める時、販売数が読めず、注文対応には不安がありました。就労支援協議会は、無理をしないアイテム数とすること、在庫をもたない受注生産制としたことで懸念を払拭しました。

課題 ECサイトの **対応** 認知度アップ
ECサイトや障がい者就労施設・事業所の活動、商品をより多くの方に知らせるため、就労支援協議会はプレスリリースで地元新聞に掲載をはたらきかけたほか、SNS発信、ポスター制作、広報イベントに積極的に取り組みました。SNSではアンバサダーに任命したインディゴソックスの選手2人が、商品を実際に着用し、広報活動を担いました。
藍染めをより身近なものと感じさせるよう、練習着・普段着、応援時をイメージした姿など、さまざまなパターンで撮影を行い、さりげない、おしゃれな着こなしを商品と合わせてアピールした結果、ECサイトのアクセス数やSNSのフォロワー数が増え、全国から商品の注文が入りました。

課題 新型 **対応** コロナウイルスの影響
連携先が野球チームであったため、徳島県外の遠征先でアンバサダーとなった選手に自宅待機期間が発生し、タイアップの打ち合わせに影響が出ました。そのような事態が発生した場合は徳島県内にいるスタッフや選手に協力を仰ぎ、連絡調整は電話や電子メールに切り替えて臨機応変に対応しました。



アンバサダー選手が商品を着用
(令和3(2021)年7月撮影)

反応・効果

利用者
の反応・効果

新しい商品の開発で利用者の作業量は増え、仕事の可能性が広がりました。販売イベントに参加すると、スポーツ選手に会えるという楽しみが増えた様子です。

職員
の反応・効果

事業所間の連携の幅が広がる一方、他方では事業所内の商品のさらなる新規開発につながり、職員たちの意気が上がりました。

地域
の反応・効果

このコラボレーションが奏功し、インディゴソックスファンや野球選手、観光客など、福祉に縁が薄かった方々が就労支援協議会、障がい者就労施設・事業所、藍染めに興味を示して認知度アップにつながりました。

インディゴソックス
の反応・効果

この事業をきっかけに、インディゴソックスは新規ファンを獲得することができました。特にアンバサダー選手ふたりはコラボ商品の着こなしの爽やかさがSNS上で大変好評を博し、好感度アップにつながったといいます。

★ 展望・課題



コロナ禍のもとでも開催可能な広報イベントに出店したり出演したりする計画と、インディゴソックス公式戦での販売を視野に入れて検討をすすめたいと、就労支援協議会は考えています。

さらに加えて、ECサイトのアクセス数を増やすための企画や、より多くの方に活用の幅が広がる新たなコラボ商品の開発に取り組むことを展望しています。

とくしま障がい者就労支援協議会のSDGsへの取り組み

インディゴソックスの選手にイベントで野球の指導を受けることは、健康と福祉の取り組みにつながります。インディゴソックスとのコラボ商品が、地域産業の振興や地球環境にやさしい天然の染（藍染）染料を使用した商品づくりである点も、SDGsを叶える取り組みとして挙げられます。このコラボレーションを実現させた事業所間の協働やウィン・ウィンの関係づくりは、「パートナーシップを結ぶ」というSDGsの項目にも当たると、就労支援協議会は考えています。

